総 務 文 教 委 員 会 記 録

令和2年5月11日（月）
13時33分～15時20分
第　4 委　員　会　室

【委　員】西村委員長、芦谷副委員長
三浦委員、西川委員、上野委員、永見委員、西田委員、牛尾委員
【委員外】
【議長団】
【事務局】下間書記

【議　題】
1. 取組課題「こどもの可能性を育む幼児教育について」

2. その他

【議事の経過】

〔 13 時 33 分 開議〕

西村委員長　出席者は全員ですので、ただいまから総務文教委員会を開催する。今日の議題は、取組課題「こどもの可能性を育む幼児教育について」の１本に絞っている。

1. 取組課題「こどもの可能性を育む幼児教育について」

西村委員長　この課題にどう取組み、話を進めていくか、正副委員長で進め方について頭をひねってこいということで、お手元に敲き台を用意した。これをまず一通り説明し、これに対して皆から意見をいただき、この流れで良いかどうか皆さんから意見をいただいてから進めていきたい。

（ 以下、資料をもとに説明 ）

西川委員　全体的な流れだが、基本的な考え方の１から５番の流れでいけば良いと思うが、1点、「提言まで届かなくてもテーマに取組んで良かったと思える議論に」というところは少しハードルが低いと思う。せっかく常任委員会でやるのであれば、提言まで持って行くというようにもう少しやった方が良い。

西村委員長　提言までいきたいということか。

西川委員　まあ、やった方が良い気がする。

牛尾委員　西川委員が言うように、今日の浜田市における小中学校の学力が非常に低いのは、もしかしたら幼児教育に原因があるかもしれないということが、調べていく中で出てくるのではないかと思うので、やはり提言まで持っていかないと意味がないのではと私も思う。

西村委員長　では基本的に、提言提出を目指すという意識合わせをするということでよいか。

（ 「はい」という声あり ）

ではそうしよう。

西川委員　全体の流れは良いと思うが、タイムスケジュール的なところで絡むのが、政策討論会をどの時点でするとか、視察はどの時点で行くとか、井戸端会で市民の意見を聞くとか。そういうタイミングに合わせたイベントがあると思うので、それも考えながらスケジュールを組んだ方がいいと思う。

西村委員長　視察などを組むとすれば２番目のところか、４番目のところかになるのではないかと思う。ただ、そうすると現時点では何とも言えない。

スケジュールの中では視察を対象にはなかなかできないという思いはある。

西川委員　スケジュールとして決まっているのが多分、今回は流れたが井戸端会が、もしやるなら10月あたりにやるという日程が決まると思うので、それをどういう位置づけにするかは、考えておいた方が良い気がする。

西村委員長　あれは中止ではなく延期だろう。

西川委員　そうだが、多分次にやるとしたら10月になると思うので、それがどういうタイミングにはまるのか。

牛尾委員　視察については議論を積みあげていく流れの中で、どこかのタイミン

グが出てくると思うので、最終タイムスケジュールはあるのだろうが、多少流れ的なものでも良いのではないか。

西村委員長　視察の可能性が一番強いのは４番目のステップではないか。それか３番目か。

三浦委員　視察の旅費等については別の経費にも流用できると伺っているが、この流れは賛成なのだが、やはりインプットがとても大事だと思う。ここに委員長も挙げられているように、議論をする前に基礎的な情報や社会的なトレンドといったものをきちんと把握して、浜田市の現状を見ていくプロセスが大事だと思う。これでいくと、ある程度問題や課題が解決された段階で視察となると、ある程度インプットの段階に経費を使って専門家の先生をお呼びするとか、オンラインか何かでご教示いただくとか、そうした進め方もあっても良いのではないかと思う。

西村委員長　要するに例えば、優れた施策や事例について、最初に学んでおいた方が、後が進めやすいとかイメージしやすいとか、そういう部分があるのではないかということか。

三浦委員　直前になって申し訳なかったのだが、津和野の教育の統括魅力化コーディネーターと話をしていろいろ情報提供をもらった中に、これはよく読まれている論文だが、青山学院大学の須藤先生という方が、OECDの調査結果を基に書かれた文書がある。こうしたものも後々に見ていくのではなく、世界的にどうなのかとか、こういうものを参考にしながら日本の政策も作られているので、こうしたものをきちんと理解することは早い段階の方が良い。見て分かるものもあれば、直接レクチャーをいただきより理解を深められることもあるので、そうしたものは前段階でやっておいた方が良いのでは。

西村委員長　それはここに入ってないか。

下間次長　入れてある。少し説明されるか。送信する。

三浦委員　文科省がやっている幼児教育の推進体制構築事業というのがある。この事業で何がされているかというと、アドバイザーを配置したりだとか、幼児教育を支援するセンターを配置して、そこでの成果がどうなのか、調査事業でいま全国でされていたりする。その調査の成果報告書はもう出ているのだが、その事業を構築する際の資料を見ていくと、この論文や先般ご紹介したペリー就学前計画といったものが、文科省の事業構築の前提としてもう取り上げられているので、そうしたものは事前に勉強しておいても良いと思うし、文科省の資料もすごく分かり易いというか、かいつまんで現状を把握するには良いのかなと。これはまた後で皆さんに共有できるのではないかと思う。

西村委員長　では１番と２番の間にそれを入れ込むか。

三浦委員　入れなくても流れ的には委員長がご提案の１から５で私も賛成なので。進めていく中で、今日はこういう勉強をしようとか、こういうインプットをしようといった時に、適切な方がおられればその方を招いてインプットの時間に充てるのでも良いのでは。

牛尾委員　例えば幼児教育の、教育指針の全容みたいなものを誰かに説明してもらうとか。もしくは幼稚園教育の要領を。基本的な学習を僕はしていないので、その辺も最初の段階で。例えば保育園と幼稚園はどこが具体的

にどう違うのかということも含めて頭に入れないと、そういう基本を外してその上に議論をされても無理かなと。そういうことを先にさせてもらって、三浦委員が言われたようなことを含めてやりながら、このジャンルに対する我々のレベルを少し上げてから議論しないと。議論に入るまでに丁寧に時間をかける必要があるのではないか。

西村委員長　去年の12月10日、全協室でやっている。一応皆に声はかけたが全員は参加されていない。

了解した。要するに最初のとっかかりでやった方が良いと。

牛尾委員　それで基本的なことを刻み込んだ方が。

西村委員長　例えば私が言ったのは、幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿というのが絵であるのだが、これをそっくりそのまま幼児教育要領に文章で書いてあることなのである。それを絵にして説明された。その時は意識がなかったのだが、私もあれを読んで初めて意図がわかった。

芦谷副委員長　全員協議会室でやった時のあの先生と、一度話をするのが良いと思う。

それといろいろなことを学ぶ前に、浜田の現状や団体の動きを知れば良いと思う。浜田ＣＡＰというのがあるらしい。こういった団体とも意見交換とか。もう１つは島根子育て支援ネットワークつながるネット西部支所が浜田にある。これと、浜田っ子教育部。こういった活動結果の報告や、現状を少し聞く。

西村委員長　いわゆる団体組織との交流というか、話を聞いてみるということか。

芦谷副委員長　はい。遠くから講師を呼ぶのは大変だが、近くならこういった機会を持てば下話になる。いっぱい貰ってはいるが、ほとんど中身を知らずに素通りしているから。

三浦委員　芦谷副委員長もおっしゃったが、２年ほど前だったか、こどもに関する事業をされている団体の方々と全協室で意見交換をしたことがあったと思う。あの時には10団体近くが来られて。

西村委員長　支援センターの絡みではなかったか。

三浦委員　はい。あの時に各団体が来られていたが、市内にもいろいろと子どもたちに関わる活動をされている方がおられるので、そうした方々と意見交換がどこかのタイミングでできると良い。

芦谷副委員長　新型コロナがあるから遠くへはなかなか難しいので、とりあえずこの７月くらいまではそういったことに重点を置いてやったらどうかと思う。近いし便利だから。

牛尾委員　コロナとはいえ我々が高いものを求めるのであれば、例えば遠方だろうが優れた方がいらっしゃれば是非来ていただき、講義を受けるのも１つの考え方かと思う。講師はあまり妥協しない。本当に一番詳しい方に来てもらえるならその方が分かり易いし、是非そういうチャンスを作っていただきたい。

西川委員　浜田市の現状や経緯を知るのに、いまの幼稚園に長くおられる教頭先生クラスの方で、幼児教育にかなり思いがある方がおられると聞いているので、浜田市内の幼稚園の方にもお話を聞いたらいいのでは。

西田委員　幼児教育といったら要するに就学前か。

西村委員長　はい。

西田委員　いろいろな団体がおられて、その方々は部分的に、例えば小学校のい

じめの影響で将来どういう人間に育つか、それをいかに防ぐか、いろんな形があるので、いろんな団体も良いがまずは就学前のこどもたちにある程度絞ってやることが重要かと思う。それが人間形成の基礎的な、インプットの段階の年代の子どもたちの教育になるので、その辺に焦点をあてて。それが我々が政策討論に向かう前の、我々の基礎的な段階だと思う。

上野委員　私もどのようにしたら良いか分からない。確かに幼児教育は学校教育の始まりで、人間形成の基礎段階で大変重要だと思う。

１つ気になっているのが、幼稚園と家庭は別個だが、地域社会との三者でそれをやっていくのが少し見えてないもので。地域社会にもっと力を入れて、もちろん幼稚園も家庭もだが、地域と一緒になってやる部分がもっともっと増えたら良い。

牛尾委員　上野委員の言うことは大事で。３歳で教育格差があると言われている。親とこどもの関係だけで、例えば収入による教育格差が言われている中で言えば、親から手厚い指導を受ける環境にないこどもをどのようにとなると、やはりそこに地域が絡んでくる。そういうことを絡ませてこないと教育を補完することは難しいと思う。是非その辺を含めて。そのエアポケットみたいな部分をどうするのかということを最初の場面で言っていくことになると思うので、是非、地域に何ができるか、地域でそれが補えるかどうかという議論は間で当然すべき時期がくると思う。

西村委員長　地域との関わりね。

牛尾委員　地域が果たすべき役割とか。

西村委員長　どちらかというと１ステップ目の問題意識のところだね。

永見委員　浜田市の現状を、いろいろ説明をお聞きして理解してから次の段階に進む方が私も良いと思う。どこからどのように進めれば良いか迷っている状況なので、現状をお聞きしてから議論に入っていけたらと思う。

西村委員長　皆一通り意見を述べられたと思う。基本的な流れはこれで行こうということで確認はできたと思う。出た意見を集約すれば、とにかく学習に重点を置いて、しかもスタートの方でまず頭に入れ込んでおくということが１つ出たように思う。あとはそれをどうしていくか。

もう１つは関係団体との意見交換を通して、幅広い現状を掴む、意見を掴むことが２点目のポイントかなと受け止めたのだが、そういう受け止めで良いか。

（　「はい」という声あり　）

西田委員　学習に重点を置く進め方と言われたが、それだけで良いのか。幼児教育は確かに学力に結び付けることに重点を置くのも大事だが。

西村委員長　学習とは僕らが学習するという意味。まず僕らが現状を知らない部分もあるし、そもそも論というか。それを重視していこうということ。

西田委員　了解した。

牛尾委員　いまのお話を聞いていると、相当タフな議論をしていかないと。ここ２、３年で経験したことがないような大きいテーマに取組みつつあるのだと思って。

西村委員長　ではこの２点をいま出たポイントとして、この流れの中に入れ込んでいくということにしたいと思う。

今日の話は最低ここまでと思っていた。いければ１番の、どういう問題意識なり、疑問、こういうところが分からないとか知りたいといったことがあれば出してもらって、その中でどういうことを学習していくのかを、ある程度ポイントを何点かに絞ってそれにテーマを置いて、学習なり視察なりを組んでいこうと大雑把に考えている。

この１ステップについて、今日いけるところまで行っても良いのか。まだ40分しか経っていないが。

皆、自由に意見を出してほしい。疑問、知りたいこと、何でも良い。

牛尾委員　いま０歳児保育をやっている。０歳児から３歳児保育の浜田の現状はどうなのか。

西村委員長　どういう意味か。

牛尾委員　保育の中身はどのようにされているのか。例えば保育所の指導指針がある。それと現行の現場の保育園は十分それをクリアしているのか。そういうところを知りたい。保育の中で幼児教育をやっているわけだろう。０歳児はただ扱うだけだろうと思うが、でも０歳児でも園によっては特別な教育をしている所があるかもしれない。そういうのを知りたい。

三浦委員　それは本当によくわからなくて。浜田市は幼児教育というものをどのように捉えていて、それを幼稚園やあるいは保育園といった未就学児が通う各場所においてどのように市の意向をある部分委ねたり、伝えながら関係性を構築しているのか、見えにくいと僕も感じている。

先ほど上野委員が指摘されたように、地域との接続も、地域とこどもたちがどのように接することでこういうことを期待しているといった市のメッセージがない限り、それは民間の事業所に全て委ねることになる。それだと市の考え方と園の考え方に、場合によっては大きな乖離が生まれてしまうこともあると思う。

幼稚園は一律なのである程度市の意向が伝えられるのだろうが、どのように意識共有できているのかは、私もしっかり知りたい。

牛尾委員　三浦委員がこのテーマを加えたのは、いま言ったようなところにあるのだろうと思っている。例えば保育園は、民営化する際に直営を１年延ばそうという浜田市の方針を出した時に、他の園が全部反対して、１園残すなら受けないと言ったから、直営１園を全部断念して渡した。逆に言えば全部丸投げしている。だから、各園がどういうことをしているのかが見えてこないし、それは市として把握するべきだろう。全部民営化で渡しているが、こうあるべきだという市の考え方を持っていないと、逆に言えばこどもがどこへ行くか分からない。それが非常に不安である。しかも３歳までにもしかしたら人格が形成されるかもしれないという一番大事な時期に、市は何かしているのか、というところにも行きつく。だから知りたい。

芦谷副委員長　前は保育連盟との話し合いがあった。あれは恐らく２年くらいでなくなった。保育協議会に加盟していないところが何件もある。そういったことも見え隠れするし、市のメッセージ。私が思うに病後児保育を見ても、なかなか市としてこうやるというのは、幼稚園も保育園も持ってないと思われる向きがある。するとやはり保育連盟との話し合いをやっても良いなと思う。

三浦委員　津和野の事例をうかがうに、教育の魅力化の会自体が、縦の連携部会と横の連携部会と大きく分かれていて、縦というのは小中高の接続のことを検討する人たちが集まって協議をされていて、横の連携部会は公民館の主事なども入られて、地域と関係性などを協議されている。これは津和野町全体としての教育のあり方・考え方があって、それをこういう形で協議していこうという、協議体や会議体にも考え方が落とし込まれている気がする。

繰り返しになるが、そうしたところの市の考え方の整理は前提としてしっかりやってから議論に入りたいし、必要ではないかと思う。

西村委員長　結局、牛尾委員や三浦委員が言われるのは、保育と教育の理念上の違いと実態の違い、共通点と違いというか、そういうことを明確に持ちたいということか。

三浦委員　所管が厚労省と文科省と分かれているのは、この論文を見るとやはり日本独特のもので、考え方を整理するのは浜田に限らずそもそもあると思う。その中でも実際には幼稚園も保育園も存在している。浜田市が「幼児教育」という言葉を出した時に、それは幼稚園の話なのかというとそうではなく、保育園も未就学児が通う施設として位置付けられているので、そこでしっかり捉えながら考えていく必要があると思う。浜田市で言う幼児教育とは幼稚園事業だけにとらわれている話なのか、全体の話なのか、その辺りをどう整理されているのかは腹に落としたい。

牛尾委員　現行では幼稚園児がどんどん減っていて、圧倒的に保育園児が多い。その部分が明確に見えていないのは、将来的に心配である。市としての明確な理念が必要だろう。幼稚園と保育園が均衡している状態ならまだそうでもないのだろうが、圧倒的に保育園が優勢な中、保育園が子供たちにどのように接しているか、どういう子どもを育てようとしているかくらいは掴んでおいて、間違った方向に行くのであればそれについて提言もすべきだろう。そういうことに市が関わっていることが見えてこないので。予算は付けたり、付けなかったりがあろうが、子供たちが成長していく中身について市が介入していない気がする。それが不安である。このままではいけないのではないか。思い過ごしかもしれないし、見えてこないから余計に思うのだろうが。

芦谷副委員長　私の理解では、保育園は幼稚園教育要領に準じて保育をしなさいとなっている。それが変わってなければおそらく、幼児教育とは幼稚園教育要領に基づいており、違いといえば給食の有無くらいのもので、中身はほぼ一緒の気がするのだが。

牛尾委員　要領は明らかに違う。幼稚園の教育要領と保育所の保育支援は明らかに違う。幼稚園要領には義務教育及びその後の教育の基礎を培うとあるが、そういう文言は保育所には見えない。

芦谷副委員長　保育指針の中に、保育は幼稚園教育要領に準じてやりなさいとなっていると思っていたのだが。

西村委員長　それは分かる。しかし重なる部分もあるだろう。

芦谷副委員長　ある。

西村委員長　しかし違う部分もある。それが何なのか誰も明確に分かっていない。多分専門家でないと言えないと思う。

この前の資料によると、時間で分けてある概念だけである。午後のこの辺までは教育時間で、そこから後は保育時間であると。幼稚園の場合は。ゼロから２歳児までは全部保育時間になっていて、幼稚園はない。これは分かるのだが、保育と幼稚園の教育の質は何が違うのかといった時に、理論上も実態上も僕らは説明できないから、それを知りたいということだろう。

牛尾委員　そう。それで良いのか。

西村委員長　理論と実体ね。それがまず１つ大きな問題意識。

牛尾委員　このメンバーで言えば西川委員や三浦委員が若いが、僕らは孫を描きながら物を言うので、もっと身近な議論があると思うのだけど。

西川委員　原井幼稚園を息子が出てからもう十数年になる。先ほどからの議論で、浜田市として保育に目が向いていない状況のような感じ。これからの議論を最後に持っていく時に、幼稚園は市立幼稚園があるが、子育て支援センターが新しくなる。ゼロから３歳までの子育て支援センター、それからが幼稚園でカバーできるような教育システムの浜田市モデルみたいなものを提案するのが、最終的な形なのかなとおぼろげに描いている。

教育と保育というよりも、教育だが子供の取り組み方という面でモデルを作り、子育て支援センターと幼稚園で浜田市モデルを作り、それを保育園にも。人と人、こと、ものを、モデルを作り保育園も対象にして、浜田の幼児教育が底上げできて、よそから来た人が浜田の教育良いな、浜田に住みたいなと思うようになれば良いかなと考えている。

西村委員長　他にないか。それだけではないだろう。

永見委員　保育園と幼稚園の幼児教育の関係で、幼稚園は市立で保育園は民間しかない。その違いはかなりあるのではないか。その辺りも理解しないと、踏み込んで話合いをするにあたりどうなのかなと思う。

牛尾委員　保育園を民営化する当時、市立の保育園があると身分保障が私立と違うから給与格差があると困ると、そういう指摘が園長先生からあった。民間に渡すなら全部渡してくれないと、公立保育園が１園残るとその１園は市の給与規定に則ることになり給与格差が出る、それでは困るから渡すなら全部渡してほしい、そうでなければ受けないと。だから長浜保育園は公立直営で残す予定だったが断念した歴史がある。

こうあるべきだという公立保育園を持っていない。民間が悪いとは言わないが、すべて民間にお任せしている部分がどうなのかというのは知りたい。市は丸投げ状態で予算だけ出している。それで良いのか。小中学生のテストの点数が全国や県より悪いというのは、どこか関連性があるのではないか。３歳ですでに教育格差があるという現実から考えると、そこに問題があったのではないかと思う。その辺をできれば解明して、本来あるべき姿へ持っていけたらと思う。

西村委員長　非常によく分かる。

西川委員　資料の２ページ目だが、そもそも保育園が1700人、幼稚園が百数人。これは幼稚園に給食や預かり保育がないというだけでなく、共働きが多いということ。大多数の幼児に対する教育を議論しないと、浜田市の教育は議論できないのではないかと今思った。保育園や幼稚園を分けると、保育所には直接手が届かないとなると成果にならないので、地域の教育

システムを考えたりしないと、この1700人に届かないのではないか。

西村委員長　言われることはよく分かる。ただそうなると逆に、保育と教育の差は、あるいは共通点は何かを理解しないと、理解は進まない気がする。きちんと理論的に語れる人、本でも良い、そういうものを僕らが腹入れしないとスタートができない気がする。

牛尾委員　僕はこういう本を買った。まだ全部は読んでいないが。幼稚園の統合問題に執念を燃やして一生懸命やってきたが、割に長い議員生活の中で実は中の教育の問題に関してはやってこなかったから、今回のこのテーマは実に良い。これを徹底してやるべきである。裾野も広い。この委員会でこのテーマをやっておかないと浜田市議会としていけないのではないかという、大きい使命感を勝手に感じている。

西田委員　幼稚園や保育所の定義を含めて、大人が見た考え方の議論が行われていると思うが、焦点は就学前の乳幼児期のこどもたちにとってどういう教育が必要で、段階的にどういうことを学ばねばいけないか、体験しないといけないかであって、そこをしっかり議論する必要がある。そういう意味では保育園・幼稚園ではなく、魅力化プロジェクトチームやワーキンググループ的な組織で、浜田市の就学前のこどもたちにとって一番必要な教育はどういうものかを議論して、その中で幼稚園や保育所には、例えば現状はこうだからもっとこうしなさいといった方向性に、少しでも良い方向に持って行けるような議論をする１つの組織的なものが、我々がいまそういう議論をしているのかもしれないが、そういった組織を作ることも目的の１つなのかなという気がした。

西村委員長　議論が１つの方向に集中している気がするが、どうしようか。

西田委員　基本的な部分の、遠方の方でも結構なので、先生のような方の意見を聞きながら我々も勉強して、１つのしっかりした腹入れをしておきたい。

西村委員長　どうもそれは共通している。スタートラインでそれを学んでから取り掛かろうと。私もそれは大賛成である。保育と教育の理論上の共通点と差異はどこにあるのか、ないのか。ずっと分からなくて。

私は個人的にもう１つ思うことがある。400人近くの子は保育園にも幼稚園にも通わず家庭にいる。３通りに分かれるその子らが小学校に上がった時に、教育力の差になって数字に出るのか、出ないのか。あるいは６年生になった時にどうなっているのかとか。学問的な見地から謳ったものがないか。これは重要な要素ではないかと思っているが、まだ探したことがないので、あるのかないのかも含めて分からない。そういう問題意識も私は持っている。家庭にいる子が400人もいる中で、教育委員会としてはそういう家庭をどのように見ているのか疑問を持っている。恐らく、特別な働きかけをすることはないのだろう。問題意識も持ってないのだろうという気はずっとしている。違いが認識されていないから、多分そういう意識もないのだろう。

どうせ突っ込んでいくなら、その辺りも調べられたら調べてみたい。

西川委員　これはデータだが、未就学児童というのは。

西村委員長　０歳児から小学校未満の子。

西川委員　家庭にいる400人というのは０歳から１歳くらいが多いのだろうと思う。

三浦委員　全国の幼稚園・保育園に通ってない子たちの健康状態や発達状態に問

題があるという、北里大学の先生が調査したデータもある。西村委員長が言われた部分は僕も数字を見ながら気になって調べてみた。この調査結果は後で提供する。

もう１つ、浜田市内に図書館やこども美術館等の社会教育施設がある。未就学児に特化したものではないが、専門知識や技術を持った司書や学芸員がそういう所に配属されていて、彼らが未就学児を対象とした時に、専門的見地から、例えば表現を豊かにしようとか、読書による効果をどのように提供できるか。これも浜田の大事な資源だと思う。幼稚園や保育園だけにすべて委ねるのでなく、上野委員が言われるように地域ももちろん関わり方があると思うし、社会教育施設は特にその中でもいろいろなことが提供できるとても大事な資源であり施設である。そうした所がこういう課題をどうのように考えているのか、そういう部分に意識を向けた事業計画を立てているのか、浜田市はどのような方針で事業作りをやっているのかといったこともしっかり知りたい。

西村委員長　それは２番かな。ここには社会教育施設は書いてない。子育て支援センター、島根県の幼児教育センターくらいしか書いてない。そこに社会教育施設を加えて。大変な作業である。

三浦委員　今度、歴史文化保存展示施設の検討委員会が開かれていく中で、武蔵野美術大学の杉浦先生という、博物館学を専攻されている先生が専門官で入られると聞いているが、その先生が今まで手掛けられた事業を見ると、保育園を丸ごと美術館にするとか、赤ちゃんからの美術鑑賞とか、美術館と一緒にそういうプログラムを開発されていて、そうした部分も幼児教育の一端だと思うので、そういう先生にこれから関わっていただけるのであれば、そういう先生からも今までの案件等を伺って、もちろんその際には美術館といった施設の方も一緒に話を聞けば良いと思う。

牛尾委員　世界ども美術館は、浜田市のような都市が高額な美術品を買えるわけがないのだから、どこに肝を入れるかと言えば創作活動。優れたアーティストを呼んで創作活動を見せること。僕らは宮城県立美術館に行って、これが浜田に必要だと思った。これならそれほどお金はかからないし。いまそれが生かされている。

三浦委員が言われるように、そういう所を利用した就学前児童の教育は、今後いろいろ取り上げていくテーマの中で１つのジャンルとして提案すべきではないか。

上野委員　２番の表にこども園がある。認定こども園のことか。

西村委員長　認定こども園の幼児部。全部ではない。

上野委員　了解した。旭矯正施設に若い方がこどもさんを連れて来て、お陰で認定こども園が100人超えている。都会から来られた方は保育所へ入れるのだが、放課後児童クラブがない時代は公民館に来ていた。その頃の子は大きくなり、旭に住みたいといって相談に来た。一番大事な時期に地域が一緒になって子育てすると、よそから来られた子でもここに住みたいと言ってくれる、そういう形ができるのではないか。幼児教育は一番大事である。時間はかかるが、実際にそういう事例があったことは嘘ではない。

芦谷副委員長　話は違うのだが、保幼小の連携計画を作る予定があるらしい。これは

１年くらい前に小学校・幼稚園・保育園を調査した結果、約９割から回答があり、そのうち保幼小の連携計画を作っているのは３割しかなかった。浜田の保幼小の連携計画はどうなのか、計画の有無も含めて調査してみれば良い。

牛尾委員　保幼小の連携計画を読むと、浜田には少し馴染まないかもしれない。今回のテーマからいくと広げすぎの気がする。

芦谷副委員長　私が言いたいのは、どういった取組があるかを見れば、保幼小が連携している姿勢の有無が見えると思って。

牛尾委員　例えば、幼稚園教諭の資格と保育所の資格と例えば小学校低学年の免許を持っている人が一杯いる中での保幼小の連携というのは、共通項があるから議論しやすいのだが、保育所の資格しか持ってない人と幼稚園免許を持っている人とでは視点が違う。これ以上は言うまい。

西村委員長　正直、問題意識としてはもっとバラバラ出るものと思っていた。

牛尾委員　僕はいままで産業建設委員会にいて日常こういうテーマをずっとやっていなかったから、話を聞いていても、小中の成績と幼児教育には関連があるのではないかといった部分は分かるが、それ以外のことを今言われても降ってこない。

西田委員　普段からぼんやり思うのだが、小中学校の不登校の問題が結構多い。そういったこどもたちは、元はどこが原因か。家庭の経済状況や家族関係もいろいろあると思う。就学前の人として基礎的なコミュニケーションだったり、いろんな基本的な部分をもっと体験しないといけない。その時期にしか形成されない人格等、いろいろあると思う。ある程度のレベルを皆が体験でき、将来における人間形成がその時期にある程度一定にはできあがるようなところまでいければと思う。家庭にいる400人はゼロ歳が大半だろうが、それより上のこどもでも行ってない子は結構いるのではないか。何が原因で行ってないのか。例えば祖父母が見てくれるなら、それはそれで非常にプラスかもしれない。その辺ももう少し調べてみたい。あの時期は、一定のレベルまでいろいろなものが形成される時なので、ある程度平等に。極端に欠けているこどもがそのまま小学校に上がっていくと、またいろんな問題行動が出てきたり、社会人になったときに心配が出てきたり。そういう気がする。

西川委員　文科省は幼児教育とは幼児の生活すべての場において行う教育ということで、幼稚園、保育園、家庭、地域社会全部と書いてある。そういう観点で議論を進めていかねばいけない。

浜田市生涯学習課が幼児教育について取組んでいるのかいないのかを知りたい。幼稚園教育から生涯教育を含めた教育システムなのだと思った。

西村委員長　浜田市の生涯学習。

西川委員　浜田市の生涯学習の中の幼児教育の位置付け。

下間次長　浜田市の教育振興計画が一番大本になる計画である。その中に、幼児教育の充実という項目と、幼児教育の環境整備という項目がある。しかしこれを読んでいくと、幼稚園の事しか触れていない。恐らく浜田市が考える幼児教育とは、幼稚園児教育なのである。

ここが所管とも関係してくるのだが、今で言うと教育委員会が考える

幼児教育というのは幼稚園児教育であって、我々がやろうとしているのは未就学児全部を含めての教育を考えることである。そこに違いがあることをつくづく思った。

教育振興計画に本当だったら、先ほどの国が出されているようなことを入れるのであれば、全体的にゼロ歳から未就学のものを入れないといけないのだろうが、あくまでも幼稚園児なのだなと。

牛尾委員　公立保育園がないから。公立の幼稚園しかないから、そういうところに行きつく。全体で言えば幼稚園児も保育園児も浜田市のこどもには間違いない。

西川委員　生涯学習で見れば社会教育施設が入ってくるので、そうするとすごく話が。

牛尾委員　次長の話は、委員会をまたぐかもしれないという指摘だろう。

下間次長　ええ、そもそもの市の幼児教育の考えが、幼稚園児教育しか持っていないならそれは問題であるのかと。

三浦委員　それならそれに対して委員会として、それどうなのということをメッセージとして伝えられるような勉強と理論武装と、意見交換をしながら最終的には、考え方自体がどうなのかと指摘できたら、それはそれで。いま結論が出ているわけではないが、概ねそういう意識と、市の大本となるその、文言的には冒頭申し上げたように、幼児教育イコール幼稚園行政のところに固まっている部分もあるし、そこのところを１回整理して、どのようにそれを位置付けていくかという整理は必要なのかなと。

牛尾委員　幼稚園から保育園にこどもたちが流れていく現状の中で、市の姿勢もあると思う。その辺も指摘をしないといけないのではないか。

西村委員長　そういう結論を先に出したらいけない。

牛尾委員　積み上げていく中で結論が変わることは一杯ある。いくつか目標を持ってそれに向かっていく中で、これは違うというものは出てくるだろう。

三浦委員　それは実態を把握していく中できちんと整理ができて、誤解があったことに気づくことが出てくるかもしれないが、いまの議論を私個人が聞く限り、市の方針が示された教育振興計画の中で扱われている言葉と、ここで議論されている幼児教育のあり方というのは、捉え方が少し違うような気がする。これがイコールならその中で議論を進めていけば良いと思うが、違っている場合にはこちら側で考えてここで議論していることが狭い範疇で議論されることになりかねないので、最終的にそうなれば指摘するべきではないか。

西村委員長　皆が言われることは良く分かる。私もそういう思いは持っているのだが、幼児教育要領や幼児教育で検索かけて資料を探ってみても、幼児教育全般をきちんと国のレベルで、あるいは国レベルで捉えて論じたいものが果たしてどれだけあるだろうかと思った時に、何かさみしい感じがした。私は逆に、浜田市が幼児教育ニアイコール幼稚園教育になっている実態になっていても不思議ではない、なぜなら国がそういう雰囲気だからという気がした。そこをまず明らかにしないといけないのではないか。国に明確なものがあるかどうか。

三浦委員　大半の自治体はそうなっているのだろうと思う。しかし西川委員が指摘されたように浜田市の実態を見れば、大半が保育園に行っている。そ

の中で幼児教育というものは幼稚園に限定して良いものかどうか。そういった点は議論に値するのではないか。

西村委員長　それはそうだ。

西田委員　根本的に、教育は縦割りだったらいかんと思う。教育委員会はあくまで幼稚園と義務教育を見ているが、十年以上前に佐賀県武雄市に行った際、教育委員会は教育委員会としてあるのだが、行政組織の中に教育部を設ける取組をしていた。もう少し深く聞けば良かったのだが。恐らく縦割り回避のために行政の中に教育部を設けているのだと思った。そこが保育園や幼稚園といった縦割り部分を取りまとめていたのかなという気がする。

西村委員長　西田委員が言われるのは、例えば１歳を半分に割って幼稚園と保育園があるという考え方ではなく、１歳には１歳の教育があるのではないかということか。

西田委員　皆生まれた時からもとは平等である。そういう考え方。

西村委員長　それはよく分かる。その発想に認定こども園が半分くらいあるような気がする。

牛尾委員　我々浜田の子どもたちなのだから、どういう教育をするかはきちんとチェックして、方向が違うのであれば訂正するというところまで踏み込んでいっても、そこまで出てこないかもしれないが、委員会としてできれば。いま幼稚園児にしてもどんどん減っているのに、市は外見的に見て何も手を打ってないように見える。本当は分からないところで努力しているのかもしれないが、結果が全然見えてこないからそれもおかしいだろうと。流れに身を任せて、なくなれば１園で良いのだという意図がありありと見えるのでそれもおかしい。その辺まで併せて意見を言うことができればと思う。直営でない保育園の管轄にしても、西田委員が言うように僕らの子どもたちであることには変わりないので、この地を背負っていく子どもたちの、未就学時の教育はどうあるべきかは、僕らが切り込んでいっても良いのではないか。相手が受けるか受けないかは別にして。

西村委員長　牛尾委員は３時で退席だったか。時間的にもそろそろ収めようとは思うのだが。

保育と教育の問題が出発点なので、ここに焦点を当てた第２ステップというのは異論がないところだろうと思う。第２ステップまであまり踏み込んで、今日ここで議論しなくても良いとは思うが。

西川委員から社会教育施設との関わりの問題が出たので、それは加えないといけないとは思う。

あと、議論してある程度決めないといけないと思っていたのは、担当をどうやっていくのか。例えば何を誰が調べて報告するのかということと、また、議題として統廃合の問題は絶対に避けて通れないので、その問題を保育、教育の本質論だけに絞って議論していて良いのか、それともそれはそれとしてある程度ここで見解を持つまで議論を深めていくのか。今日結論を出さなくて良いとは思うが。時間をかけて議論して、最終的に統廃合の問題は触れなかったとなると、それならそれで理論建てが必要ではないかと思ったので、曖昧にせずに入口である程度仕訳をし

たほうが良いのではないかと思ったので、皆から意見を頂戴して方向性だけ決めて今日は終わりにしたらどうかと思う。

牛尾委員　統廃合問題は私も委員長も執念を燃やして過去十年にわたってやってきた。市の姿勢が明確でない、後ろ向きのような気がする。それと教育指針に幼稚園しか載ってないのであれば、幼稚園はどうなのということで、直営の幼稚園がないとすべて民間に丸投げするのかという議論が出てくるし、そうではないという議論が必要ではないか。それについて委員会として結論が出せれば、所管委員会としては、幼稚園はこうあるべきではないかという一定の見解が提言できれば良いと思う。

西村委員長　この問題、放置する気はないがあまり引っ張れないと思うのだが。２、３回目辺りくらいでけりをつけて、やるならやる、やらないなら、やらないを決めたい。

西川委員　これまでの経緯をあまり理解していないのだが、この委員会で子どもの教育を議論していく中で結果として統合したほうが良いとか、しないほうが良いという結論が出ていくのでは。それが目的ではなく結果として、こういうことをするなら統合したほうが良いのではとか、そういう流れになるのではないか。

牛尾委員　最初に結論ありきではなく、議論する中で結論が見えてくると。それなら美川幼稚園と四中の問題も、是非この中に入れてもらいたい。

西村委員長　それはどうか。

牛尾委員　議論する中で結果がもし、それを合わせるとすれば。教育委員会は非常に後ろ向きだと思っているので。地域はずっと考えているのにそれをまったく無視するような現状はおかしいと思う。だからそれについても、もし提言のようなものができれば、皆の合意を得て。特に美川地区は公民館をはじめ社会教育を熱心にやっていて、モデルになり得るものなので。逆に言えば市が美川モデルを積極的に市全体に進めるくらいの気概があっても良いのだろうが、熱心にやっている地域住民に冷や水をかけるような話であるので、それもおかしいと思っている。

西村委員長　西川委員が言われることもよく分かるし、私も第２ステップで、今までの経過や民営化、統廃合の歴史あたりは知らない人のほうが多いかもしれないので、やったほうが良いと思う。西川委員が言われる方向でやろうか。一通りこのテーマに沿ってやってみて、統廃合について最後にどうしようかというところで、議論するかどうかをやるということで。

次回はどうしようか。

下間次長　21日に総務文教委員会を開く予定が入っている。

西村委員長　これは定例の分だね。

下間次長　はい。以前で言う調査会である。

牛尾委員　定例の内容の後にやれば。

西村委員長　では次回は、この21日に予定している内容が終わり次第引き続きとしても良いか。その代わり、なるべく午前中で終わらせる。

議題としては今回の続きとなるので、おさらいも含めて１番の、問題意識を羅列して最終的に何についてという２番に入っていき、何について調べるのかを私が案としてまとめてきて、それをまた敲いてもらい、できれば担当を決めたいと私は思っている。誰がそれを調べて報告する

のか。それは１週間や２週間では調べられないかもしれない。

牛尾委員　もし事務局さえ良ければ、例えば９時や９時半くらい、少し早めに始めないか。この問題についてそこそこ時間を取らねばと思うなら、12時までで終わるつもりなら２時間しかないので、事務局さえ良ければ９時か９時半に始めれば、その分会議の時間が持てる。

下間次長　それは執行部からの説明などがある委員会自体を９時から始めるということか。

牛尾委員　９時半でも良い。

下間次長　委員長は午前中のうちに全部を済ませようと思っているのか。

西村委員長　うん。定例の中身が思い浮かばないから。

下間次長　まだ議題も出てきてないので何とも言えない。

西村委員長　しかし次は、今日ほどはかからないと思う。

下間次長　次回は各委員の問題意識や疑問について。

西村委員長　これで良いかというおさらいと。

下間次長　事前にもう１回送ってもらうのは。

西村委員長　それでも良い。

下間次長　今日の意見を聞いてまとめるようなイメージか。

西村委員長　それぞれ言ったことを１行にして、最終的に調査項目として２つか３つかな。

牛尾委員　これはユーチューブでアップされるのだろうね。

下間次長　はい。

牛尾委員　それを見ないと、自分が何を言ったか全部は把握していない。

三浦委員　この議論、スタイルとしては各委員が自分で調査して、それを報告して、それで意見を言う感じなのか。

西村委員長　いや。

三浦委員　今後の進め方はどうなるのか。

西村委員長　私もそれほど明確に描いてはいないが、今日の話ではかなり膨大な調査が要るようで、視察も含めたら講師を呼んでくることもどうやら必要だと感じたし、そこそこ手間がかかるのではないかと思って。そうすると、例えば１つのテーマで二人１チームで当たるようなイメージで描いた。

牛尾委員　皆の共通認識ができそうではないだろうか。

下間次長　何かの調査項目をまずは決めようという感じか。

西村委員長　そう。そして例えば保育と教育の基本的な考え方、前にいただいた資料を再度やってもらうようなイメージなのだが。これを受けていない人もいるし。すでに聞いている人はもっと深めれば良いし、初めて聞く人はそういう認識に立って聞けば良い。

下間次長　その調査項目というのは、今日の議論で委員の皆が出してくれた意見を箇条書きにして、分類していくようなイメージ。

西村委員長　そう。

下間次長　新たに出してもらう必要はなくて。

西村委員長　新たには出さない。

下間次長　今日の分で、事務局と委員長とが一緒になって。

西村委員長　そう。だから牛尾委員は自分が言ったことを覚えてなくても良い。私

	が汗をかく。
牛尾委員	ああ、正副委員長で今日の分はまとめてもらえるのか。
西村委員長	まとめて、次回に、これでいかがだろうかと出させてもらう。それで、要らない項目や加えたい項目を出して、その時にできれば担当まで決めたい。それで良いか。
	（　「はい」という声あり　）
下間次長	あと21日の開催時間についてだが、執行部との調整が分からない。
西村委員長	私は１時間もあれば良いと思うのだが。少し延びたとしても12時過ぎくらいまでを考えておけば。
牛尾委員	いや、今日みたいに盛上るかもしれない。盛上るのは良いことだ。
西村委員長	ではそういうことで。
下間次長	次回は21日（木）10時から。
西村委員長	では、終わる。

〔　15 時　20 分　閉議　〕

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

総務文教委員長　　西村　健　㊞